

第四七回 内村鑑三研究会のご案内

日時 二〇二六年九月二一日（月曜日・祝日）一四時～一七時
場所 今井館聖書講堂（東京都文京区本駒込 六―一二―一五）＋ZOOM オンライン会議

発表①

関東大震災における賀川豊彦と内村鑑三——震災観と終末論

黒川知文

（中央学院大学特任教授、湖北パークサイドチャペル主任牧師）

「発表要旨」

一九二三年の関東大震災は内村鑑三と賀川豊彦にどのような影響を与えたのであろうか。講師の研究を紹介し、社会史と神学思想の観点からこの問いを比較考察したい。一九一八―一九一九年において内村鑑三は再臨運動に従事していた。賀川豊彦は一九二一年に百万人救霊を目標とするイエスの友会を結成していた。震災発生時に内村は軽井沢にいてすぐに自宅にもどり自警団にも参加している。賀川は救援船山城丸に乗って横浜に向かい救援活動に従事した。両者の震災観と終末論も比較考察したい。一九二四年六月五日に両者は銀座において会合している。その内容も紹介する。

発表②

内村鑑三の再臨信仰と現代——終末の風景と生命（いのち）の水の河

小林孝吉

（文芸評論家）

「発表要旨」

戦争の新世紀、世界では旧約の風前の刳殻のように、何万人もの人の命が無惨に失われ、それはウクライナ、ガザ、ベネズエラ、イランとつづいている。私たちは今、「あなたはどこにいますのか」という神の呼び声に、どう答えたらいいのだろうか。内村が晩年に至った聖書の キ・ノート 福音としての再臨信仰は、この世界のニヒリズムとディストピア、累々とした死という終末的風景に、どのような希望の物語Ⅱ万人（物）救済論を描くことができるのか。それはAI時代に、再臨信仰の現代的意義を問い直すことへとつながっている。懷疑の森から いのち 生命の水の河の ほとり 辺、そこに広がる救済の、再臨の風景へと、内村鑑三の再臨信仰をたどり直し、ここに「新しき生」を見つめたい。

司会 ミシエル・ラフェイ（『内村鑑三研究』編集委員、北海道大学教授）

資料・通信費 一〇〇〇円

申し込み 対面での参加の皆さまは申込み不要です。会場に直接お越しください。ZOOMでオンライン参加を希望なさる皆さまは九月一七日（木）までに左記岩野宛メールアドレスにてお申込みください。折り返しログインURLと資料・通信費振込口座情報をお送りします。

主催 『内村鑑三研究』編集委員会（岩野祐介、柴田真希都、ゾントーク・ミラ、高木謙次、千葉眞、ラフェ

イ・ミシエル、渡部和隆）

問い合わせ 岩野祐介 メールアドレス ah117298@kwansei.ac.jp

今井館教友会内『内村鑑三研究』編集委員会 電話 〇三・六二七七・五六六九